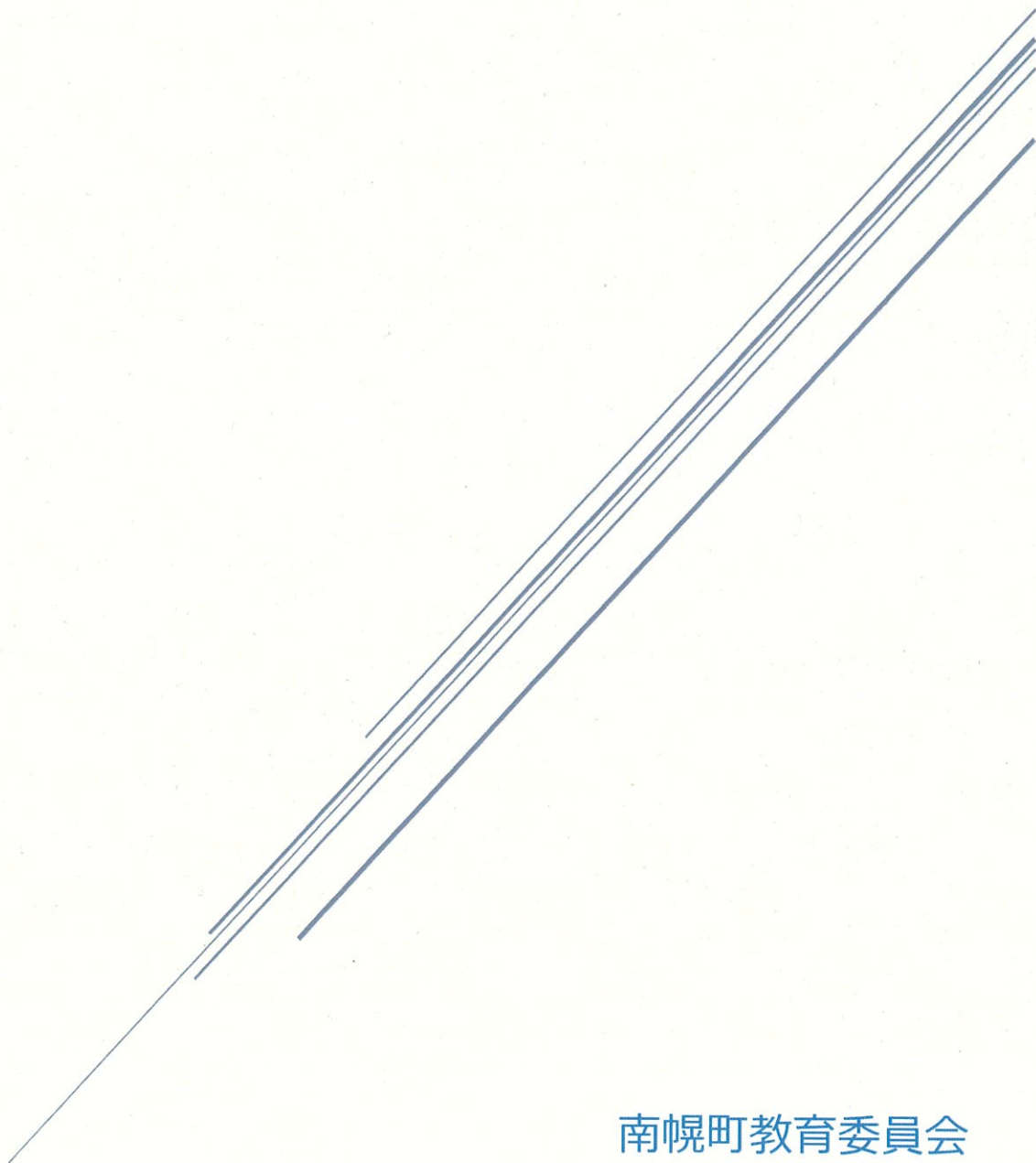


南幌町中学生国際留学プログラム事業

令和5年度



南幌町教育委員会

2023年7月22日(出発)～31日(帰町)

南幌町では、次代を担う中学生を海外に派遣し、外国での語学研修やホームステイ体験を通じ、国際性豊かな人材を育成することを目的に平成26年度から『南幌町中学生国際留学プログラム事業』をスタートしました。

海外派遣7回目となった本年度の派遣はオーストラリア、南幌中学校の生徒10名に決まりました。派遣期間は、7月22日から31日の10日間。派遣者は、ホームステイの心得や英語レッスンの事前研修(全6回)を受け、初めての海外研修に備えました。

本書は、クイーンズランド州ケアンズにおいて、現地のサン・パシフィックカレッジでの語学研修、グレートバリアリーフでの自然体験学習、ホームステイによる生活など様々な体験をした生徒たちの報告書です。



目次

派遣生徒の報告文

【報告者】

・ 齋藤 陽斗・菅原 陽斗・佐藤 鈴音・

才崎 海人・佐々木 快里・阿部 姫々輝・

安田 陽莉・古屋 彩空・木村 葵唯・辻松 桜

・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・

1

地図

・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・

25

行程表

・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・

26

僕のオーストラリア物語

南幌中学校3年 齋藤 陽斗

僕は7月20日から7月30日までオーストラリアでホームステイをした。

1日目

ゲスト講演があった。「歴史から学ぶ日豪関係」という題名で、内容は、太平洋戦争のときに日本・オーストラリア間で起こった戦争から関係修復までを多方面から見て、日豪関係を現代の僕たちが考えていくという大変興味深いものであった。ゲストはこう言った。

歴史を学ぶ上で、三つのポイントを重視していた。

一つ目は「事実の理解」二つ目は「知った事実を解釈」三つ目は「それを応用する」ことである。

この三つのポイントは、歴史を学ぶ上でとても重要で、これからも続けるべきだと教えてくださった。この講演で、多方面から物事を見るのは日常生活にもとても役に立つものだと思うた。

2日目

グレートバリアリーフに行った。グレートバリアリーフといっても、船に乗って人工の島に行って、そこから海に入るという思ってたのはちょっと違う展開だった。

しかし、僕たちがおこなったシュノーケリング、グラスボート乗りは、申し分ないほど楽しく、わくわくしたので、結果的に良い結果になった。

また、シュノーケリングは、シュノーケルとウエットスーツを着て海に入るので息ができない濡れたくないという人でも大丈夫そうだった。

それに加え、美しい珊瑚礁や多くの魚、運が良ければ、ウミガメやサメも見られるらしい。船内も、揺れはするが、水も飲めるし、美味しいパンやクッキー

も出るなので、人工の島に着くまでの1時間30分ぐらいを有意義に過ごせた。

3日目

動物園に行った。

動物園には、日本では見慣れないような頭がピンクの鳥や数匹のコアラ、中には2〜3メートルもある巨大なワニもいた。また、コアラを抱っこするイベントもあった。

値段は30ドルと少し高めだが30ドルでとても貴重な体験ができたと思うと、そんなに悪くなかったように思える。

4日目

ボタニカルガーデンに行った。日本語だと植物園という意味だ。

ボタニカルガーデンには、とてもたくさん植物があった。

その中でも特に綺麗だと思ったのは、とうがらしの実だ。

下に垂れるように実っていて、色が赤色なので少し恐ろしいような感じがするが、葉っぱがとても鮮やかな緑色をしていて、

穏やかな感じがし、ギャップを感じられとても気に入った。

他にも、カンガルーリーフや、ヴァンパイアツリーなどの日本では珍しいような植物が見られるので、とても良い体験になったと思う。

5日目

スポーツデイがあった。その日はバスケットボール、バレーボール、ドッジボールを行った。

自分はオーストラリアで何の制約もなかったため、全力で楽しむことができた。

また、サンパシフィックカレッジ（SPC）の人たちはとても

スポーツに積極的で、たまに大人気ないところもあるが、留学生と共にスポーツを楽しんでいるように見えた。

バレーボール、ドッジボールはできたが、途中で足のマメをつぶしてしまい、バスケットボールができなかったことが唯一の後悔ポイントだった。

6日目

その日は休日で学校がないので、ホストファミリーの方に車で「スミスフィールド」というデパートのようなものに連れて行ってもらい、同じステイ先の人と色々な物を見て回った。特に目にとまったのは、人ですが、紫色の髪ですごい派手な服を着ている人でした。

その人を見て、僕は改めて「世界は広いなあ」と実感した。

昼食は、フィッシュアンドチップスを食べた。

それはその名の通り、魚とポテトを箱に入れたものだ。量が多いので最初味わって食べていたものが、途中から苦行に変わって、味すら感じないという状態に落ちてしまったことが、この日の後悔ポイントだ。しかし、

フィッシュアンドチップスはめっちゃ美味しいので、是非食べて欲しい。

7日目

この日はオーストラリアを出国する日だ。

朝、ホストファミリーとの感動の別れを控え、バスで空港に向かった。SPCの人たちは、最後まで僕たちを保護してくれた。

出国する前、タカ（学長）からの感動的な別れのスピーチで泣く人が多数いた。

また、SPCスタッフの別れスピーチもあり、最高に感動的な別れだった。

出国ゲートをくぐり、飛行機乗り場に向かう途中でみんなに笑顔が戻った。

今回のオーストラリア留学で僕は言語の違いという大きな壁を越え、国際社会、多文化の尊重などこれまでとは違う新しい世界への道が見えた。これを追求し、平和への道を歩みたい。

この一人の中学生が変革の道導になることは難しい。だが、少なからず願ってはいる。争いのない平和な世界を。

留学を終えて

南幌中学校3年 菅原 陽斗

私は、今回の留学を経て色々なことを学びました。それは大きく分けて2つです。

まず、一つ目は挑戦し続けることです。

私は、研修前のレポートの目的を達成したい理由の所に、「英語圏で学べる活きた語学力を体感することにより、自分にとって非常に有益な経験が得られると確信したから」と書きました。

ですが実際、「活きた」がいまいちピンとこなく、まったく想像もできない状態でした。それが今回の留学でピンと来ました。

ホストファミリーとの会話は、最初はほぼ聞き取れなく、聴き返すか頭の中で文字を並べてから理解するので時間もかかり、質問に対しての返答も「YES」か「NO」ばかりでした。それでも会話をし続け七日目の最終日には会話の理解する

速度も格段と早くなり返答も具体的に戻せるようになりました。挑戦し続けるというのは、ありきたりなことですが、すごく大切なことだと分かりました。

日本に帰ってきた今でも私は色々なことに挑戦し続けようと思います。

二つ目は、大切にすることで。オーストラリアを出発する前の最後のオリエンテーションの時に、語学学校のボスが、大切にすることについて話していたのが心に響きました。

私は今色々なこと・ものを大切にすることを心がけています。家族だったり、いただきますの言葉だったり、身近にあるものは全部心がけています。私は今回の留学で達成出来なかった目標があります。

それは、アボリジニの文化を深く学べなかったことです。

個人的にアボリジニについても興味があったので、非常に惜しいことをしてしまいました。

ですが、達成出来た目標もしっかりあり、それは、オーストラリアの多様な文化を体験して、日本の文化と比較して共通点を探り、学ぶことです。

実際に行ってみると想像していた量を遥かに超える文化の違いがあり、むしろ共通点が片手で数えられるほどの少なさでした。主に違うと感じたところは、やはり水関連が多かったです。特に、風呂は浴槽に入れないのは当たり前で、日本より水が貴重なので入浴時間も5分と、驚きの短さでした。

他の留学仲間に聞いてみると、二日に一回しか入れないホストファミリー宅もあったそうです。

その次くらいに感じたのは、食文化でした。

私はオーストラリアに行って、初めて食べたものがたくさんありました。ビーフストロガノフやフィッシュアンドチップス、様々なものを食べました。かなり私的ですが、それでも私は日本の食文化が一番で、誇りだと思っています。

次に、私は留学後のキャリアについて詳しく書きました。それについても少し述べていきます。

研修前のレポートには「自分の夢に大きな好影響をもたらす」と書きました。

今回、留学を終えて目に見えるようにはっきりしてきました。

私はあれから将来の夢が変わり、公認会計士になりたいと思っています。将来的にはワーキングホリデー制度を利用してアメリカで働きたいと思っています。

その上でも、今回の留学は将来の夢への第一歩になりました。それに、留学のおかげで英語への莫大なモチベーションがつけました。

このまま精進していきたいと思っています。

最後に、今の日本の経済情勢と海外の経済を比べながら述べていきたいと思っています。

今の日本のトップは岸田総理ですね。ですが、彼が日本人から税金を多く徴収して、海外への軍事支援に充てている影響

で、日本の経済社会が不安定に崩れつつあります。消費税も15パーセントに後々なっていく

と、森林環境税なども増えるとなると、少子高齢化よりも懸念すべきなのは、経済崩壊への備えだと思っています。ですが、今の日本にそんなことをしている余裕はありません。

そこで、海外で働くことを考えてみました。例えば、ドバイで働くとし

ます。そうすると、ドバイの一世帯当たりの平均年収は、2000万なので、日本の数十倍もあります。そう考えると、このまま日本の企業に就いて働くより、海外の企業に就いて働く方がよっぽど現実的です。

最後にもう一度言いますが、私はこのまま英語を頑張っ

て、いつか世界に飛び立って働いてみせます。

国際留学プログラムを終えて

南幌中学校3年 佐藤 鈴音

私はこの留学プログラムに行けると決まったとき、面接に受かった安心と嬉しさと同時に不安な気持ちが大きくなりました。参加が決まってから、実際に自分が英語を話して、コミュニケーションをとれるかどうか、話せたところで伝わるかどうかの不安や、初めて海外に行くため、ホームステイ先で上手くやれるかどうかで緊張していました。

私はこの留学プログラムに行っていたことは気になりませんでしたし、ホームステイ先には、二人で行くことになっていたので、安心してました。空港を出てすぐに空気感や植生が違っているため、やっと来たという実感がわきとてもうれしかったです。その後、バスで語学学校に移動して朝食をとり、ホストファミリーのお迎えが来るまでの時間まで学校内の案内や、注意事項を聞きました。そして、ホストファミリーと対面する時間にな

りました。事前にホストファミリーの名前などは、知っていましたが、どのような人なのかは分からなかったため、緊張していました。ですが、会ってみるととても優しい家族だったので、とても安心しました。家に到着し、部屋に案内されると、ホストファミリーの娘さんが、お菓子とコアラのキーホルダーを用意してくれていました。そして、昼食はビーチに行くと、ピクニックをしました。ケアンズの海はとてもきれいな

ので、とても興味深かったのと同時に、日本人の過ちが起こった戦争に巻き込まれ、ひどい仕打ちをしたにも関わらず、今では盛んに交流が行われているのを知り、感謝しなければならぬと思いました。その後、ほかの地域から来た日本人留学生の人と仲良くなり、一緒に昼食も食べました。そして午後からは授業を受けました。最初はついていけないかなどでしたが、グループでの仲間と協力しながら問題を解いていたので、とても楽しく授業を受けることができました。三日目は予定が変わり、グレートバリアリーフに行きました。船に乗って人工の島に行き、そこでシュノーケリングをする予定でしたが、事情があり私はできませんでした。です

が、グラスボートに乗り、珊瑚礁を見ることができたので、船酔いはしましたが、楽しかったです。

この日は一日グレートバリアリーフだったため、授業はありませんでした。

四日目はショッピングと、動物園に行きました。

三つのグループにわかれて、それぞれ順番に回っていきまし

た。私達のグループは、最初にスーパーマーケットに行きました。私はそこでTim Tamというオーストラリア発祥のお菓子を買いました。

そして、次に動物園に行きました。

そこでは、赤ちゃんワニに触れたり、コアラを抱っこして一緒に写真を撮ったりできました。屋内動物園だったため小さかつ

たですがとても楽しかったです。

最後に、OKギフトショップという所でお土産を買いまし

た。このギフトショップでは、従業員の方が日本人であったため、買い物がいやすかったです。

この日は授業の先生が変わりました。前の先生の授業より

難しかったです。分らないところは教えてくれる優しい先生でした。

五日目は植物園に行きました。

ガイドの方の説明付きで、園内を回っていましたが、途中で雨が降ってきたためギャラリー

で休むことになりました。

その後、雨が上がると、希少な花やオーストラリアにしかない植物を見ることができました。その日の夜は、ホストファミリー

ーがナイトマーケットにつれていってくれました。

色々な種類のお店があり、とても賑やかで楽しい場所でした。

六日目はスポーツデーで、バレーボール、ドッジボール、バスケットをしました。

私は、あまり球技が得意ではないのですが、チームのみんな

と、楽しく過ごせました。この日は語学学校で授業を受ける最後の日だったため、セレモ

ニーがありました。

授業をしてくれたダミアン先生や仲良くなった友達と別れるのは寂しかったです。

七日目のオーストラリアで過ごす最終日は、ホストファミリーとホストシスターと一緒にショッピングに行きました。

この日の夜は、ホストファミリーがご友人の家に行き、バーベ

キューをするのに連れていってもらいました。ホストファミリー以外の人々との良い交流の場になりましたが、うまく話せな

かったのが心残りでした。とても楽しい時間を過ごせました。

今回初めての海外で、勉強になった点多かったです。反省点も多かったです。

上手く話せなくて戸惑ったことも多かったし、あまり自分から話しかけられなかったように思います。

ただこのような経験が、次に生かせるような貴重な経験になりました。

この国際留学に参加できて本当に良かったし、関わった人達には感謝してもきれません。素敵な経験をありがとうございました。

貴重な経験

南幌中学校2年 才崎 海人

僕は、あまり英語が得意ではなく、日常会話レベルの英語力を身につける、日本とオーストラリアの違いを見つけるためにこのオーストラリア留学に応募しました。

留学が決まった時、すごくうれしかったけど、時間が流れてくるうちに、英語が通じるかすごく不安でした。

実際、ホストファミリーと初対面した時、速すぎてあまり聞

き取れず、もう一度言ってもらったり、タブレットの翻訳機能を使ったりしてくれましたけど、最後の方は気を使ってくれて、ちょっとゆっくり言ってくれたので、ちゃんと会話できました。

初めて学校に行った時、学校では、「English Only」と、お偉いさんに言われました。

機内でも日本人が多く搭乗していて、英語は機内アナウンス

でしか聞けず、急に英語だけと言われ頑張ったけど、時々日本語が出ちゃいました。

僕がホームステイしたホストファミリーは、お父さん、お母さん、犬、猫の4人家族でした。ホストファミリーはすごく明るく優しくとてもいい人でした。鉄道模型が趣味とあっており、見せてもらうと、そこにはダブルベッドほどの大きさの台に鉄道や山、家などが本格的に作られていました。

オーストラリアでは、水不足が慢性的でシャワーの時間が制限されている所があると聞いてすごく驚きました。

僕たちのホストファミリーは、一週間のホームステイの中で犬とともに、海に連れてってもらいました。そこに来ている

人のほとんどがペットを飼っていました。

日本のペット保有率は三十六パーセント、オーストラリアのペット保有率は六十一%とオーストラリアのペット保有率が世界トップレベルと聞き、びっくりしました。

2日目の学校では、船でグレートバリアリーフの人工島に行き、そこでシュノーケリングをしました。

スノーケルの使い方がわからず、めっちゃ海水を飲みました。オーストラリアの海水は塩分濃度が高いのでめっちゃしょっぱかったです。

3日目は、動物園とスーパーマーケットに行きました。

動物園では、コアラをさわれるとありましたが、三千円も払わなければならず、どうしよ

うか迷っていたが、友達が払ったので、僕も払いました。

コアラを抱いてみると何かつめがささってて、いたかったけれど、とてもかわいかったです。

高かったけど、三千円以上の価値がありました。

学校の授業は二人一組になって、謎解きや単語をつなげたりしました。クイズ感覚で英語が楽しく感じました。だけど、日本語を一言でも喋るとみんなの前で腕立て十回させられます。

オーストラリア最終日の前日、ホストファミリーがワラビーパークに連れてってくれました。ワラビーは、カンガルーの幼少期です。僕たちはワラビーにエサやりをしました。ペレットを手につけるとワラビーがやって来て、手のエサを食べてくれました。

ちよかわいかったです。

その後、前お金を家に置いていき買えなかったので、OKギフトショップに行ってくれました。

僕がこのオーストラリアで一番に残っていることは、日本とオーストラリアの戦争です。

実は太平洋戦争（一九四一年から一九四五年）のとき、日本は、だんだん南に攻めていきました。

オーストラリアは一九〇一年に独立しているが、イギリスの植民地みたいで、戦争に参加せざるを得なかった。

日本のオーストラリア空襲により、多大な被害が出た。オーストラリアの人は、日本のことをあまり良くないイメージを持っていると思うけど、それでも日本人を引き受けてくださってい

るんだよ。と言われて、本当に

感謝しかなかったです。

最後に、この国際留学プログラムで学んだこと体験したこと感じたことは、誰もが経験できるわけではない貴重なものだから、大切にして行きたいです。

また、将来的に英語は必要不可欠なので、これからも英語が伸びて英語にたずさわれる職業に就きたいです。

留学での思い出

南幌中学校2年 佐々木 快里

私は七日間程の留学で、様々なことを学んだり体験することができてとても貴重な時間になりました。

私は留学に行く前とても不安でした。話していることがまったくわからなかったらどうしようや自分の言っていることが伝わらなかつたらなどのことを思っていました。けど、実際オーストラリアに行ってみると、ホストファミリーなどは私がわかるように簡単な

単語を選んで話してくれたり、ゆっくり話してくれたりしたおかげで私も理解ができて、コミュニケーションがしっかり取ることができました。

私がオーストラリアに行っと思ったことは、とても自然豊かな所だと思いました。大きな木がたくさんあったり、山がたくさん見えたり、ビーチが近くにある、身近な所に自然がたくさんある良い所だなと感じました。

他には、オーストラリアの人たちは、フレンドリーな人が多いなど感じました。歩いていたなら「あっちにヘビがいるよめずらしいよ」と教えてくれました。日本だったら歩いていて、すれ違うときに教えてくれる人はあまりいないと思います。

オーストラリアで過ごした七日間は毎日が普段と違う非日常でした。

一日目はオーストラリアに着きその後バスに乗り、語学学校に行きました。そこで朝食を食べ、ホストファミリーの家にいくという流れでした。飛行機が着陸して空港に着いたとき、オーストラリアに来た実感は、あまり起きませんでした。けど、空港から外に出たとき、日本では見えないような木があったり英語の標識を見て本当

にオーストラリアに来たんだと思いました。

語学学校に着き、朝食を食べるとき普段なら食べられるのに、あまり食欲が湧きませんでした。

朝食を食べ終わった後、学校のルールなどを説明されました。その後、ホストファミリーが迎えに来て、車に乗って家まで行きました。

家の中の紹介をしてもらいました。綺麗で広いおうちでした。やっぱり家の中を土足で歩くのには少し違和感を感じました。一日目は昼ご飯と夜ご飯を食べ、その後ランプをしました。それで一日目は終わりました。

二日目からは語学学校です。

学校では英語オンリーで英語しか話してはいけませんでした。

学校初日のアクティビティは、ゲスト講演と英語の勉強でした。ゲスト講演では、昔、オーストラリアと日本が戦争していた事などを聞きました。日本とオーストラリアが戦争していたことを聞き、今は留学を受け入れて来れるような関係になってよかったです。

講演会の後は、ランチタイムです。ランチには、ホストマザーが持たせてくれたランチボックスに入っている物を食べました。日本のような弁当じゃなく、サンドウィッチとクッキー、フルーツなどが入っていました。ランチを食べ終わった後は、自由時間があつたので、サッカーをしました。自由時間の後は勉強です。授業の中で英語

を喋るタイミングがたくさんありました。とても難しいなと思いましたが、

学校が終わり、ホストファミリーと夜ご飯です。夜ごはんはビーチに行ってバーベキューをしました。海の近くで食べるご飯はとても美味しかったです。二日目は初めての学校だったので、とても疲れました。なのでその日はすぐに寝ました。

三日目は、世界遺産のグレートバリアリーフに行きました。船に乗り、ポンツーンという名前の人工島に行き、シュノーケリングをしました。船に乗っている時酔いをして気持ちが悪くなりました。けど、島に着いたら元気になったので良かったです。海はすごくきれいで、サングラスとたくさん魚が見れました。

四日目は動物園と買い物に行きました。

この日から三つのグループにわかれて行動するようになりました。カンガルー、コアラ、クワイルの三グループでした。

私はカンガルーのグループで、最初にスーパールに行きました。見たことのないお菓子などがたくさんあつておもしろかったです。ここで初めてのオーストラリアでの買い物をしました。買う時少し緊張したけど、無事にうまく買えました。次に動物園に行きました。動物園では、コアラを抱っこして写真を撮ったり、大きなワニを見たりすることができました。

楽しかったし、コアラがとても可愛かったです。

最後に、OKギフトショップという名前のお土産屋さんに行き、買い物しました。店主さんが日本人で、とても面白い物がしやすかったです。

学校に帰ってきて、英語の勉強をしました。クロスワードパズルなどを楽しみました。難しかったけど楽しかったです。家に帰ってディナーの時間とても大きな魚が出てきて驚きました。とても美味しかったです。五日目は植物園に行きました。日本では見ることができない植物がたくさん見れました。すごく大きな木があったり、大きな葉っぱなどいろんな所が大きかったです。

家に帰るとハブニングがあり
ました。昨日買ったお菓子が部
屋からなくなっていました。

それを伝えるのが難しかったけ
ど、ホストファミリーは理解し
てくれて、一緒に探してくれま
した。お菓子がなくなった理由
は、飼っている犬が持っていっ
てしまったから無くなったとい
う事でした。三つなくなっ
て、一つは見つかったけど、他は見
つかりませんでした。見つから
なかった分はホストファミリー
が買ってくれました。

六日目は、スポーツ大会があ
りました。バスケ、ドッジボー
ル、バレーをしました。久しぶ
りに体を動かしたので疲れまし
た。

勉強はシークワーズなどをし
ました。得意なので、すぐに見
つけられて楽しかったです。

この日で語学学校に行くのは最
後でした。一日が終わるのがと
ても早く、あっという間でし
た。卒業式を行いました。

先生と写真を撮ったり、卒業す
る生徒のみんなでも写真を撮り
ました。

七日目は、ホストファミリー
とお出掛けをしました。

カンガルーの赤ちゃんに餌をあ
げる所に連れて行ってもらっ
たり、綺麗な景色が見れる場所
に行ったり、アイスを食べたり、
他にもたくさんの方に連れて行
ってもらいました。とても楽し
い一日でした。

留学に行っても良かった
なと思います。

出会った人たち、みんな良い
人たちで、もう少し長くオース
トラリアに居たかったです。



日本との違い

南幌中学校2年 阿部 姫々輝

でも気持ち良かったし、小魚も見れたので満足です。

その日も、ホームステイの家に帰ったらすぐに寝ました。

自分の気持ち的には、ホストファミリーと会話したいのですが、体がついてこないのので、ゆくり関わっていいこうと思いましたが。

四日目は動物園に行きました。

動物園では、オーストラリアならではのコアラを抱っこしてきました。コアラは自分の想像よりかたくて驚きました。

写真も撮っていただいて思い出がまた一つ増えました。

コアラ、すごくかわいかったです。コアラを抱っこした後にはショッピングに行きました。

そこで、三つ目のハブニングが起りました。私を買ったカメ

のスノードームが割れてしまっ

たんです。先生にわけてしまったことを伝えて、ショップに交換できるか聞いてもらいました。結果はノー、返品交換は受け付けないとのことでした。

まあこれも自分らしいなと思います。良く思うことにしました。人生、楽しんだもん勝ちです。

午後からはずっと不調だった調子も戻り、授業にも参加することができました。

英語オンリーで難しかったですが、友達と協力してなんとか聞いていくことができました。

授業といってもゲームをするので、楽しく英語を学ぶことができました。

五日目の植物園では、蚊や色々な種類の虫がたくさんいたので、同じコアラチームの安田陽

七月二十二日の朝、私達は保護者に見送られ大きな荷物、友達と共にバスへ乗り込みました。

新千歳空港に行くとき添乗員のえびなさんと合流し、ここから十日間の留学がスタートとしました。

十日間の中にはいろんなハブニングがありました。

一つ目のハブニングとは、私達が関西空港に行くための飛行機が、大幅に遅れたことです。

ケアンズには予定通り着けたので安心しました。

二つ目のハブニングはすぐにやってきました。

そのハブニングとは、飛行機に酔ったことです。

いつもは飛行機で酔うことはなく、大丈夫だろうと思っていた

ので、少し焦りました。この酔いは二日間続き、船に乗ったことでさらに悪化。結局、グレートバリアリーフでは泳げず、足だけつかってきました。足だけ

莉さんと辻松桜さんと古屋彩空さんの四人で虫を追い払ってました。でも、何故か彩空の周りにだけ蚊がたくさん群り、人一倍刺されていて騒いでいると、外国の先生が「蚊は黒いものに寄ってくるんだよ。黒とか濃い色を認識しやすいからね。」と教えてくださいました。

彩空は全身、黒だったので、蚊が寄ってくるのも納得です。自分はギリギリ蚊に刺されずに済みました。友に感謝です。

午後の授業は、単語探しをしました。チーム戦で、私は陽莉と同じチーム、桜と彩空がチーム、で戦いました。他の子たちの活躍もあり、このゲームは勝てました。なかなか難しくかったです。六日目のアクティビティは、スポーツ大会でした。

それぞれ3つのスポーツを五分づつバスケット、バレー、ドッジボールと行いました。

始めのバスケットは三人共大活躍。桜は敵のボールをカットし、彩空はゴールの下でシュートを決め、陽莉は遠くからロングシュート。

日本で練習した成果が発揮されていきました。

私も日本で練習したのに外れまくりで萎えました。なぜか何もないところですべり、転けそうになりました。

そして四つ目のハブニング。バレーの休憩のとき、外でバドをしていると、すべって次は転けました。手のひらと膝を擦りおき血が出ました。なので、その後のドッジボールは見学にしました。午後、授業を受け終わると外に呼ばれました。外に出

ると終了式が始まりました。一人ずつ名前が呼ばれ、賞状がわたされました。その後は、もう会えない友達や先生方と写真を撮り、六日目が終わりました。

七日目、ホストファミリーと過ごす最後の日です。私達は、まず海に行きました。

私のホストファミリーの母は、ジェイキーさんといいます。海について私達が海に入ろうとすると、「海に入ったら危ないよ。なぜなら、クロコダイル、ワニがいるからね。」と教えてくれました。

その後、マクドナルドに連れて行ってもらいました。ポテトとナゲット、ソースを交換し合いながら食べ、スーパーマーケットへ向かいました。スーパーマーケットでは、日本の

人達へのお菓子を買い、これでホームステイは終わりです。帰りの飛行機は友達と楽しく会話していたので、酔わずにすみました。

関西ではラーメンを買いました。久々の日本食はとても美味しかったです。次の日、無事に帰ってこれました。

この留学を通して学んだこと。まず、自分たちが無事に帰ってこれたのは、優しく送り出してくれた親、この事業のサポートをしてくださった役場の方々、英語を教えてくださいました先生方、一緒に行った友達など、色んな人達の支えやつながりがあったからだと感じました。

二つ目は、オーストラリアの街並みについてです。

自分たちが行かせていただいたところは、白い平屋が多かったです。一つ一つの敷地が広く、自然が豊かでした。

道路は交差点が円形になっており、右回りというルールになっていました。

このように、日本とは違った体験ができて、世界がもっと興味深くなりました。英語でも思っていた以上に会話が通じるので、まずは勇気を出して話しかけることが大切だと思います。

この経験のおかげで、将来への視野が広まったので、お世話になった方々にも、態度や学んだことを活用して感謝しようと思います。



考えを変えた十日間

南幌中学校2年 安田 陽莉

7月22日、私達は短期留学でオーストラリアに向けて出発しました。

千歳空港へ着くと、飛行機の到着が遅れており、出発の時間が予定とずれてしまうというハプニングが。

関西空港に着いた時間は、予定とは異なりましたが、その後は滞りなく目的地であるケアンズに着くことができました。た

だ、飛行機に乗っているとき、友達の場合が悪くなってしまうため、心配でした。

その後、バスに乗って語学学校へ向かいました。

そこで話を少し聞いて待機している、私達のホストファミリー

ーが迎えに来てくれました。私とペアの佐藤鈴音さんは一緒にファミリーの家行きました。

犬が迎えに来てくれました。

最初はものすごい勢いで吠えられて少し驚きましたが、後々なついてくれて、可愛かったです。

翌日、この日からアクティビティが始まります。ファミリーのお母さんに学校まで送ってもらいました。

一日目はゲスト講演会でした。学校の食堂に集まり、講演を視聴しました。内容は「日本とオーストラリアの歴史について」でした。

その講演では、昔の日豪の関係や、日本の悪い所、戦争についてなどを知りました。

私は個人的に日本とオーストラリアが深い関わりを持っていると知らなかったので驚きました。

一日目が終わり、ファミリー宅に帰り、夕食後、ファミリーの

娘さんとボードゲームなどで遊びました。

寝る時間になり、就寝準備をしていると、ふと、オーストラリアでの起床就寝の時間が早いと思いました。オーストラリアでは、健康的な生活ができました。

二日目はなんと、グレートバリアリーフへ行きました。行きは酔いが酷く死にかけましたが、シュノーケルを始める頃には体調も良くなり、友達と元気に泳ぎました。

泳いでいるときも、一つハプニングが。泳ぐときにつけるシュノーケルの部品が一部なくなっており、息を吸うと、海水が入ってくるということがありました。

後でちゃんと取り替えました。

水中をみると、たくさん種類の魚やサンゴを見ました。とても綺麗でしたし、初めての体験ができました。

船に戻ると、寒くて大変でした。でも、何とか着替えて、昼食を食べました。帰りの船では全く酔うことなく、友達と外に出て海の景色を見ていました。

三日目は動物園に行きました。

動物園では、コアラを抱っこすることができました。

写真を撮ってもらうこともできました。とてもかわいかったです。

他にも鳥や蛇、亀なども見る事ができました。

その後、ケアンズ一大きいギフトショップに行きました。お土産も買えて満足しました。

その日は体調不良だった友達が回復し、元気になっていました。

午後からの英語の授業も難しいこともありましたが、無事終えることもできました。

四日目は、植物園へ行きました。朝、雨が降っていて、担当のスタッフさんが「もしかしたらショッピングになるかも」と言っていたのですが、出発時、無事雨は晴れてバスに乗り植物園と向かいました。

植物園は、屋外にありました。大きい葉、高く伸びた幹など日本では見られないような木々などを観察し、写真に残すことができた一方で、友達が大量に虫刺されをつくっていました。幸い、私は虫刺され薬を持参していたため、貸すことができました。

蚊は黒色に寄っていくと付き添いのスタッフさんに教わったとき、その友達は、全身黒の半袖短パンだったので納得しました。

その日の夜、ホストファミリーが、ショッピングモールに連れて行ってくれたり、ゲームセンターで遊ばせてくれたりしました。

とても楽しかったです。五日目、この日は登校最終日。

午前のアクティビティはスポーツ三昧。バスケット、バレーにドッジボール、休憩時間には、バドミントンをしたりもしました。私達のクラスは、疲れたら休んでいいよスタイルだったので、最後の種目のドッジボールでは、参加したい人だけで行いました。

この日は最終日だったので、卒業式をしていただきました。

私達の他にも何人か卒業する人はいて、皆、認証状的なものを受け取りました。

最後に先生と写真を撮り、短い学校生活に終止符を打ちました。

そうして迎えた土曜日。この日はホームステイ最終日だったので、一日ファミリーと過ごしました。

ドライブしたり、買い物させてもらったり、娘さんと遊んだりしました。

夕食はホストファミリーの友人の家へお邪魔させてもらい、そこで食べさせていただきました。他にも友人の方と話をしたり、映画を鑑賞したり、サッカー観戦で盛り上がりたりと、と

でも楽しい時間を過ごすことができました。

今回の留学プログラム事業では、オーストラリアと日本の関わりや歴史、違いなどを体験しながら学ぶことができました。冬なのに気温が二十五度を越えたり、生えている木の種類が日本とは異なっていたり、日本にはいない動物を見ることができたりと興味深いこともたくさんありました。

一時は言語が異なるため、コミュニケーションが上手くできるかという心配や不安がありました。しかし、ホームステイファミリーや学校のスタッフの方がとても親切だったので楽しく一週間過ごすことができました。

言葉の壁はありますが、その壁に負けず、意欲的に会話したりしているとコミュニケーション

ンがとれるようになって、楽しむことができました。

この事業のおかげで、異なる環境での過ごし方を知ることができましたし、英語で会話ができたという少しの自信にもなりました。

この経験を生かし、これからの道を進んでいきたいです。



留学を通して

南幌中学校2年 古屋 彩空

七月二十二日から七月三十一日までの約十日間、オーストラリアSPCケアンズ校に短期留学しました。私は、海外に行くことはなかった故に今回海外に行く機会をいただいとて感謝しています。

初めは、言語が違う異国の地で生活するのは不安で、飛び立つときは少し緊張気味だったことを思い出します。

しかし、異国の地で生活したことは、この上なく良い経験になりました。

現地では、平日9時から12時までは観光、2時から5時半までは英語の学習、土日はホストファミリーと過ごすという生活でした。

学校では、主に英語を使っていますが、言語の壁に伴うコミュニケーションはとても困難でした。

まず、相手の英語が早くて、まったく聞き取れないことがとても多くて困りました。

その上、相手に話しかけたい時間も話しかけた方がわからなくて、自然と話しかけることを躊躇してしまったり、うっかり日本語が出てしまったりすることがありました。

ですが、SPCの校長先生は言いました。

「日本語がわからない人の前で日本語を話すことは、とても失礼なことですよ。」と、確かに自分も知らない言葉で話されるという気持ちしなないなと思えました。

そのため、SPCでは英語以外話してはいけないというルールがありました。

とても素敵な考え方だなと思いました。

そのルールのおかげで苦心することはたくさんありましたが、とても有意義なときを過ごすことができました。

そして、日々勉強の毎日でした。

登校初日は、オーストラリアと日本の歴史について学びました。

例えば、太平洋戦争は、日本にとってアメリカのとの戦争でした。しかし、オーストラリアにとっては、日本との戦争だったそうです。

その当時は不仲だったとか。

その後、日本とオーストラリアの親交が深まるまでの経緯なども細かく演習していただきました。私は正味のところ、歴史は苦手好きではありませんでした。しかしながら、今回の演習

はとても奥深いお話で、物語のようで興味深かったです。

その後、演習が終了した後のお昼ご飯もワンダフルタイムでした。ホストファミリーが作ってくれた。初めてのお弁当の時間です。サンドウィッチやフルーツ、お菓子が入っていて最高でした。食べ終わると午後の授業がありました。

初日の授業では、違う国の人や都道府県の人たちと英語で自己紹介しました。

語学学校には、ベラルーシという国の人や兵庫県の人など、沢山の人が集まっています、英語以外のことも学ぶことは多かったです。

例えば北海道では、二チームに分かれるときはグッチでわかれると思いますが兵庫県では、グッとパーで分けられましたら

いんです。英語であっても違う地域の人と交流するのはとても楽しかったです。初めは話しかけるのも少し逡巡してしまいました

たが、一緒に活動する時間が多かった分、話す機会も多くなって自然とみんなで協力して英語で生活を送ることができたと思います。

しかし、矢張り一〇〇%英語で話すのは難しく、よく日本語を話しては注意されていました。今となってはとても懐かしく思います。

そして、その出来事が私の英語をもっと勉強しようと思うモチベーションにもなりました。

今後、また海外に行く機会があっても、こんなにたくさんの日本人には会わないと思います。買い物するときに日本語で助けられる人は居ないし、わから

ない英語があっても教えてくれる人はいません。

今度、外国に行く機会がまたあったらその時は、誰の助けもなく何の不自由もない位上手な英語を話せるようになっていたいです。

英語は伝わりやすいです。今は伝える英語のレパートリーが少ないので、その中で相手に伝わりやすいだけかもしれません。ですが、その達成感がまた英語を勉強しようと思うモチベーションになります。

今できる勉強は学校の勉強や英検の勉強ですが、そういう身近な勉強から英語を深めていこうと今回の留学で思いました。

そして、今回の留学で反省すべき部分も見えました。

まず、声が小さくなりがちでした。自分の英語に自信がなく

て、自信なさげに話してしまうことが多かった事です。

伝わらなくてもいいから聞こえなかったら話にならないので、とにかく大きな声で話すことが大切だと学びました。

オーストラリアの方々はとても優しく、自分が意味分からないうことを言っても、会話を続けようとしてくれます。

そのおかげで学ぶことも多かった事です。そのため、一番大切なことは、どんなに相手の言っていることがわからなくても聞き直したり、使い方がわからなくても、伝えようと頑張ったり、とにかく話そうと会話を続けようとする気持ちだと、今回の留学で気付かされました。

初めての挑戦

南幌中学校2年 木村 葵唯

自分がこのプログラムに参加しようと思ったきっかけは、母親でした。母さんにこういうプログラムあるらしいよと教えてもらい、何かしらに挑戦したいと思っていたので迷わず応募しました。まずはやってみないと始まらないという気持ちでした。正直英語は得意な方ではなかったし、面接もうまく受け答え出来るか不安で心配だったけ

れど、いざやってみると楽しかったです。

受かるかどうかは別として、こういった経験ができたのは良かったな、という気持ちになりました。

そして結果は合格。正直英検持っていないし、英語の成績が良いワケでもなかったから落ちるかとも思っていたけれど、受かって本当に嬉しかったです。

そして念願の留学一日目。どんな人がホストファミリーなのか、学校などでは全部英語で話さなければならぬ、色々な不安がありました。同じホストファミリーに泊まる子が風邪ひいてしまったのも不安で初日は不安でいっぱいの日でした。

ホストファミリーの家でも何をしたら良いのかも分からず、あと、八日間も大丈夫かな？と思っていました。

そんな次の日、本格的な授業が始まった初日。社会のオーストラリアと日本の戦争についての講演がありました。

社会の授業では教わらない所だったので知れて良かったし楽しかったです。午後の授業では、全然知らない人達と関わって英語のみだったので不安と恐

怖があり、早く帰りたい一心でした。

3日目は一日中グレートバリアリーフに行き、一番の心配は船酔いでしたが案外大丈夫で逆に皆が酔ってて心配でした。

海に入るのは初めてで、入った瞬間足が床に着かずパニックになったけれど、慣れてくると海に居る魚を見たり久しぶりに泳いだりできて充実した日になりました。

4日目は動物園と買い物に行きました。

動物園が室内にあることには驚きでした。人生で初めてコアラを抱っこしました。思った以上に毛がフワフワしていて中々出来ない体験だったので、できて良かったです！買い物は、お金をあまり持っていなかったの少ししか買えませんでした。午

後はまた授業があったけれど不思議と楽しんでまたやりたいなと思えました。

5日目は植物園に行きました。天候があまり良くなくて行くか心配だったけれど、無事行けて良かったです。午後の授業は四日目の先生と同じ人で、また楽しく授業を受けられました。ペアになって、お互いに協力しながらやるものだったけれど、全て英語で伝えないといけない大変でした。言語が伝わるとはすごく大切な事だな。とも感じられました。

6日目は学校登校最終日で長かったようで短く名残惜しかったです。この日はスポーツ大会で、バスケット、バレー、ドッジボールをしました。バレーではあまり活躍できなかったけれど、

残りの二つではまあまあ活躍できて良かったです。

男子達がドッジボールで暴走してはちゃめちゃ感がとても楽しかったです。

午後の授業は、早めに終わって卒業式をやりました。一週間という短い期間でしたがとても充実したものでした。

留学で英語を学ぶのは勿論大切だったけれど、一番自分が考えた事は言語：でもあるけれどやっぱりいつも一緒に居る人の大切さでした。言語の違いで上手く伝えられなかったり、伝わらなかったりして大変なことも多々あったけれどそれよりも何よりもいつも当たり前に一緒に居る人の大切さがこの十日間で分かりました。空港でオーストラリアを飛ぶ前に、最後校

長からの話を聞かせてもらいました。

「ホームシックになりましたか？」と問われ自分含めほとんどの人が「いいえ」と答えました。それを見て校長は言いました。

「皆に会いたくなって、泣きくじったり、悲しくなる事だけがホームシックでは無い。少しでも家族や友達のことを思い出したり、その人に帰ったらこんな話がしたい。そんな事を少しでも考えたならそれは立派なホームシックだ。」と。そして校長が改めてホームシックになった人を聞くと、ほとんどの人が手を挙げました。自分もその中で人でホームシックというものを勘違いして覚えていたのか、と初めて知りました。それが一番

心に残ったシーンで心に残った言葉でした。

これからは、今話した事や、話しきれなかったけれど、オーストラリアに行って教わった大切なことを生かして行きたいです。当たり前の事かもしれないけれど、それを実行できるかはまた別だし、これからも悔い無いように色々な事に挑戦して失敗も成功も将来につなげたいな、と思えました。

オーストラリアで体験した異文化

南幌中学校2年 辻松 桜

7月22日、私はオーストラリアへ色んな感情を乗せて旅立ちました。

せんでしたが精神的疲労を感じました。

私は、飛行機はまったく酔わないのですが、飛行機に乗っている時間と睡眠時間が重なったため飛行機の中で寝なければいけなく、どうしても座りながら寝れず、2時間だけの睡眠しか取れず、精神的疲労が溜まり少し酔いました。これからは、想定外のこと起きてもしっかり準備対応できるようにしっかり準備

最初は10日間が長いなど思いましたが、実際に現地で体験してみると、あっという間でした。

今回はオーストラリアに居た

10日間で体験した異文化や、感性の違いなどを紹介していきます。

1日目は出発式があったり、飛行機にずっと乗りっぱなしだったり、体はあまり動かしま

す。

2日目はついにオーストラリアに着きました。

しておくのが大切だなと学んだ出来事でした。

この日は学校がなかったため、一日中ホストファミリーと、交流をしました。その日は海に連れて行ってくれました。

海水でベトベトになったので、帰ったらすぐシャワーに入りましたが、シャワーを入れる際、内と言われ、驚きました。

確かにオーストラリアに行く前に、オーストラリアでは水は貴重だと教えてもらいましたが、制限があるのは驚きでした。2日目は、その出来事に異文化を感じました。

3日目はゲスト講演で、日本人の方が、授業をしてくださいました。ゲスト講演の内容は歴

史でオーストラリアと日本の古くからの関係を学びました。授業も日本で行っており、英語だけの授業よりはしっかりと理解でき、その分、深く考えられました。今回この授業を受けて、昔の日本が、どんなにひどいことをしたかを初めて知りました。昔に、日本はオーストラリアにとても酷い態度をとっていたのに今、戦争も無く平和に関われていることをすごいと思いました。

この日はオーストラリアと日本の昔の関わりについて深く学びました。

4日目は、世界遺産にも登録されているグレートバリアリーフへ行ってきました。

行きと帰りで船に片道2時間かけてグレートバリアリーフに到

着しました。グレートバリアリーフは本当に綺麗でした。

本や写真でしか見たことのないナポレオンフィッシュやウミガメなど直接、泳ぎながら肉眼で見れて、今本当にオーストラリアに来ているんだな、と実感すると同時に感動しました。

その他にも、船内アナウンスなどで、オーストラリアの人達の人間性やユーモアを感じました。

5日目は動物園とショッピングへ行きました。

この語学学校では、グループが三つにわかれており、その日は私達のグループが動物園、ショッピングの順番で行動しました。動物園では、コアラがいるのはもちろん、ワニを触ったり鳥との距離が驚くほどに近く人慣れしていました。ショッピング

グをしたお店では、日本人で英語を話して働いている人も居

て、言語が違ってもコミュニケーションをとって仕事ができるまでになるんだなと強く思った日でした。

6日目は植物園へ行きました。

その植物園は二つのエリアに分かれており、ゆっくり歩きながら担当の先生がしてくれる説明を聞いて二つのエリアを周りま

した。

植物園にはオーストラリア特有も植物も多少植えられており、他にも不思議な動きをする草や食虫植物があって、そのよ

うな珍しい植物を発見する度に、英語で説明をしてくださり、その説明を聞いていると英語も勉強になるし、面白い植物の生態なども知れて、いろいろ

な学習ができた体験学習だなと思いました。その後の午後の授業では、英語で英語の授業を受けたので、新鮮でした。

他にも、昼休みの時間がとても長く、授業中寝ている生徒に気づいているのに、注意をあまりしない所をみていると日本との校則の違いを大きく感じました。

7日目は、スポーツ大会兼学校最終日でした。

スポーツ大会は、三つのスポーツをそれぞれのチームで行うのですが、どれも私の苦手分野の球技だったので、実はオーストラリア行く前から少しだけ練習をしていました。

大会では、その成果が少しだけ出たので、とても嬉しかったです。

その日の授業は最終日ということもあり、授業が早めに終了し卒業する生徒達への卒業式が行われました。

私達も卒業式には、卒業生という立場で参加させていただきました。短い間でしたが、仲間になった人達もいて、別れが寂しかったです。たっくさんの思い出を写真に残したり、いろんな人達としっかり喋ったりして悔いの無いオーストラリアの学校生活を送れたと思います。

8日目は、ホストファミリーと過ごす最後の休日でした。この日はお土産屋や海、有名な公園などへ連れて行ってくれました。

この日は移動中の車の中がいつも通りだけど、少し寂しく感じました。

家に帰ったら、晩ご飯を食べて準備をして、最後に少し会話をしてから寝ました。

9日目は出発の日です。

朝は普段はシリアルでそこに食文化を感じていましたが、この日は雑炊でした。

最後の別れは意外と時間がなく、寂しさはとも感じましたが、日本へは帰りやすかったです。今回の飛行機に乗ったのですが、特にトラブルが起きることもなく乗れました。

渦中の夕日がとても綺麗で、たくさんの写真を撮りました。日本に帰ったらすぐにラーメンを食べました。

オーストラリアでは麺類が出てくるのが少なかったのですが、そこにも食文化を感じました。

10日目はついた南幌へ戻ってきました。10日ぶりに会った親に

はちょっと照れくさいなと思いました。

その日はずっと体験したことを親に話していました。

7月22日にオーストラリアへ旅立って7月31日に私達は南幌へ帰ってきました。

本当にオーストラリアに居た日は毎日、驚きと発見でいっぱいでした。その他にも、オーストラリアの人達のフレンドリーな性格などもとっても良かったです。

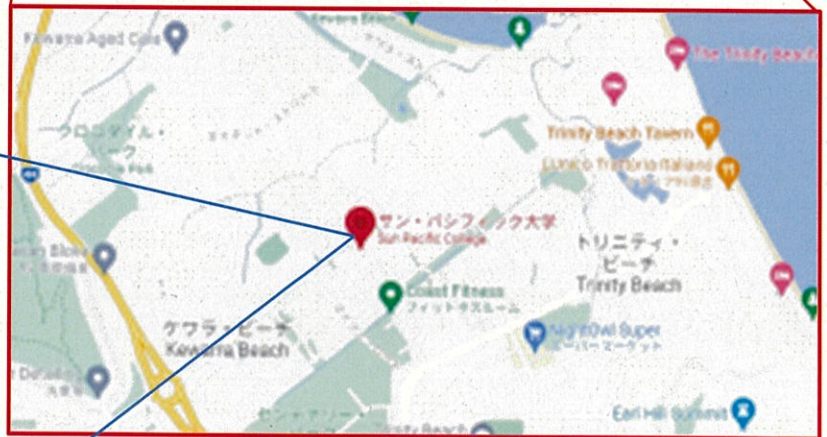
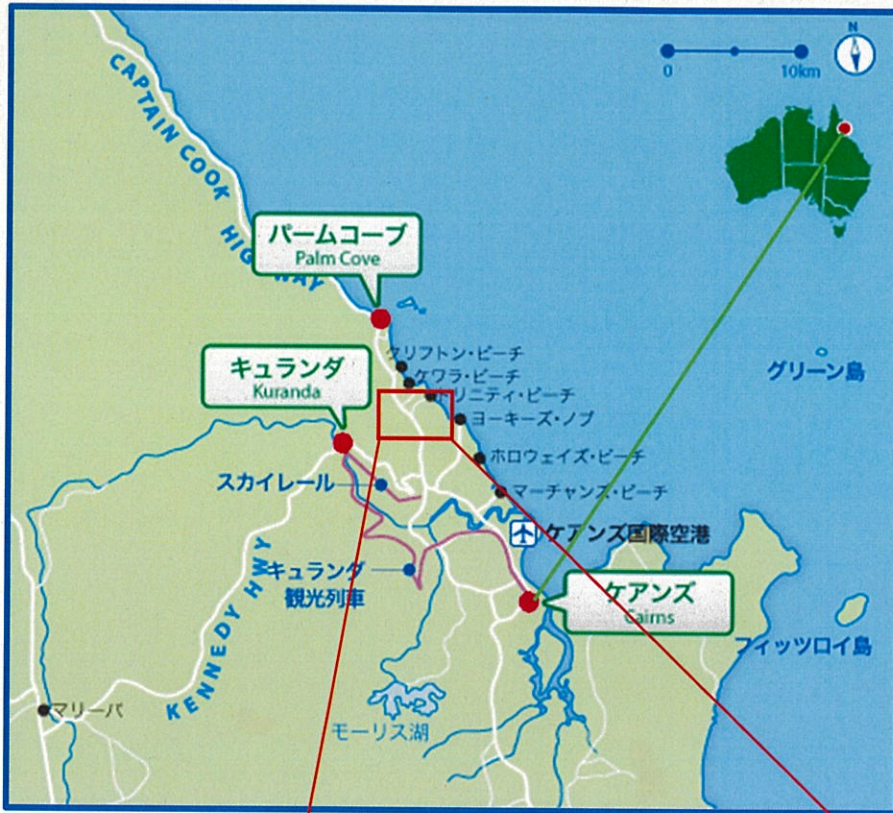
私は本当に今回、このプログラムに参加してよかったなと思っています。

また機会があったら、ぜひ学びに行きたいです。

たくさんの出合いがあり別れもたくさんありましたが、とても楽しく学べました。

オーストラリアはしっかりと異文化もあって、最高に楽しくて幸せな国でした。

地図



行程表 (2023 年)

日次	月日 (曜)	地名	現地時間	交通機関	行程
1 日目	07/22 (土)	集合 南幌町発 新千歳空港発 関西空港着 関西空港発	09:00 09:40 13:20 15:35 21:05	町バス GK154 便 JQ016 便	出発式 9:10 南幌町生涯学習センターぼろろ 南幌町から新千歳空港へ 国内線にて関西空港へ 出国審査 関西空港からケアンズ空港へ 【機中泊】
2 日目	07/23 (日)	ケアンズ空港着 学校着	05:10 07:00	混乗車 ホスト送迎	入国審査 サン・パシフィック大学 朝食、オリエンテーション、施設内見学 ホストファミリーと合流 【ホストファミリー宅泊】
3 日目	07/24 (月)	ケアンズ	終日	ホスト送迎	英語レッスン ゲスト公演 【ホストファミリー宅泊】
4 日目	07/25 (火)	ケアンズ	終日	ホスト送迎 専用バス	自然体験 世界遺産グレートバリアリーフ 【ホストファミリー宅泊】
5 日目	07/26 (水)	ケアンズ	終日	ホスト送迎	英語レッスン 動物園見学 (Cairns Zoom) ショッピング研修 【ホストファミリー宅泊】
6 日目	07/27 (木)	ケアンズ	終日	ホスト送迎	英語レッスン 市営自然公園 (ボタニックガーデン) 【ホストファミリー宅泊】
7 日目	07/28 (金)	ケアンズ	終日	ホスト送迎	英語レッスン スポーツ大会 【ホストファミリー宅泊】
8 日目	07/29 (土)	ケアンズ	終日		ホストファミリーと過ごす休日 【ホストファミリー宅泊】
9 日目	07/30 (日)	ケアンズ空港発 関西空港着 ホテル着	午前 12:25 18:55 19:30	混乗車 JQ015 便 シャトルバス	ホスト宅より語学学校集合 出国審査、ケアンズ空港から関西空港へ 入国審査後関西空港周辺ホテルへ 【関西エアポートワシントンホテル泊】
10 日目	07/31 (月)	ホテル発 関西空港発 新千歳空港 南幌町生涯学習センターぼろろ	9:20 10:45 12:45 14:40	シャトルバス GK153 便 町バス	ホテルより関西空港へ 国内線にて新千歳空港へ 新千歳空港到着後添乗員とお別れ 到着後解散

育てる喜び、育む幸せ。

南幌町

TOWN NANPORO

令和5年11月発行

編集・発行 南幌町教育委員会 TEL 011-378-6620

〒069-0237 北海道空知郡南幌町栄町3丁目3番1号

中学生国際留学プログラム事業には南幌町を応援されている皆さんの寄附金が活用されています。